質問件名 保育の受け皿など子育て支援のさらなる充実を

【質問要旨】

国では1994年にエンゼルプランを発表して以来、1999年に新エンゼルプラン、2004年に子ども・子育て応援プラン、2010年には子ども・子育てビジョンと少子化対策として子育て支援策の整備を行い、今年からは子ども・子育て新制度へ移行します。20年の間に、「子育てを社会全体で支える」という理念が公的に使われることになったことは大きな前進ですが、実態はまだその言葉に見合ったものにはなっていません。小平市でも、認可保育園の増設は共働き世帯の増加には追いつかず、待機児解消が見通せないというのが現状です。

保育への対応ということ言えば、自治体の多くは将来的に子どもが減ることからニーズは増えないという見込みで保育行政を行っていた時代が長く、小平市もその例にもれなかったと言えます。

しかし、私自身働き続けてきた立場から、この20年間女性たちの声を聞き社会状況と併せて考えてみると、子どもを生んでも仕事を続ける女性の割合が増えることは明らかでした。議員になった当初から働く女性の増加を訴えてきた立場としては、耳を傾けていただけなかったことの悔しさとともに将来を見通した行政経営がいかに重要かを痛感している次第です。

現在の保育課を中心とした次世代育成部のご努力をねぎらいつつ、子育て世代をともに応援していくためにはどうしたらいいかを、前向きに共に考えていきたいと思っています。

仕事をしていてもしていなくても、親の子どもへの思いは同じです。そして、何よりも子どもの育ちにとって必要なものは、保護者の状況、特に母親の就労状況にかかわらず同じです。遊びや食事、睡眠など日々ののびやかな成長を保障するために、家庭の状況に応じて子育て世代を応援することが地域で子どもを育てるということです。親に足りないものを補うという発想でなく、子どもの権利の視点に立ってすべての子どもを社会で育てるという考えのもと、以下の質問をします。

- ① 認可保育園の待機児童解消に向けて、地域別の分析や転入動向と併せて短期的計画を策定する必要があるのではないか。
- ② 家庭的保育の良さを活かした小規模保育を子どもにとってのメリットもあると捉え、導入していく考えはあるか。
- ③ 子育て中の保護者（主に母親）の職場復帰や再就職には、時短や休暇など働く時間への配慮が不可欠と考える。中小事業者向けのワーク・ライフ・バランス推進支援事業の市内事業者への紹介や啓発など、職場環境整備促進に向けて市の取り組みは。
- ④ 子ども・子育て支援事業計画で新規事業として位置づけられる利用者支援窓口に期待するものは何か。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2015年2月16日 小平市議会議長 殿

小平市議会議員 氏名 日向 美砂子

受付番号【   】

26	25	24	23